

令和元年度 学校評価書

令和 2年 3月25日
浜松学院大学附属幼稚園
園 長 山崎 亜佐美

1 本年度の重点目標

- ・ 支援を要する子への対応
- ・ 教員の資質向上を図る

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

※ 評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）の数値で表す

自己評価	評価項目	具体的な取り組み	改善策	学校関係者評価委員の意見	評価
B	保育の計画性 ・ 園の教育課程および学年別指導計画を作成する。 ・ 個別支援を要する子への対応	・ 各教員の立場で、各々、長期・短期計画を立て、保育運営・園運営に取り組み、関係教員間で共有した。 ・ 入園前に親子面談を行って個別支援計画を作成。年度当初からより適切な援助ができるようにした。	・ 勤務時間の都合や行事が立て込んでいる時期は話し合い時間の確保が難しいことがある。前もって日程を決めて準備する。 ・ 事例検討を行い、個々に合わせた対応を考え、情報共有する。成長に合わせた課題を保	・ 個別支援を要する子への援助は、どの園児にも必要な援助であるため、実践して行って欲しい。 ・ 個別支援を要する園児への早期対応は重要である。園児や保護者へ早期に適切な対応をして行って欲しい。	A

			護者や専門機関と共有し、支援方法を都度再検討する。		
B	保育の実践力と環境設定 <ul style="list-style-type: none"> 子ども一人ひとりの思いや発見を大切にしながら活動を進める。 季節や発達に応じた保育活動をし、子どもは満足感や達成感を感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各園児に最善最適な援助ができているか迷うことがあるが、教員間で情報共有や相談をしながら実践している。 愛情を持って園児一人ひとりに合った対応や援助を心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの様子に合わせて、その理由を探り、良い方向へ向かうように寄り添う。 教師一人ひとりがどの子にも目をかけ、様子を伝え合うことで、園全体で子どもを見ていく意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援を要する子どもだけでなく、どの子どもにも一人ひとりに適した援助が求められる時代である。今後も個々に合わせた対応をしていく必要がある。 	A
B	教師の資質とチーム力 <ul style="list-style-type: none"> 教師としての能力、姿勢、義務を果たしている。 教員間の情報共有やコミュニケーションを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員として、クラスの園児は勿論、他クラスの要支援児について把握、考察することで、クラス園児の対応に生かす。 担任と副担任、補助教員が保育に関する視点を共有できるように短時間でも話し合いの時間を持つ。 全教員で園児を見守る意識を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 園児事例検討会参加や資料配布により、全教員が情報共有する。 クラス毎に短時間でも教員の話し合いを持つよう心がける。 それぞれの教師が共同でクラス運営、園運営にあたっているという意識を持ち職務に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 園全体の雰囲気活発で明るくて良い。 外部から見て、子ども達に対して全力で取り組んでいることを感じることができる。 若手の人材確保と育成が今後の課題である。労働時間・仕事内容・充実感・教職員間のコミュニケーション等多方面からのアプローチが必要である。 	A
B	保護者への対応 <ul style="list-style-type: none"> 学級通信で子どもの様子やクラス集団の成長とその意味を伝える。 保護者からの意見や要望を 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの相談は、おたよりを書く、話すなど時間を惜しまず対応している。教員側からも、園児の様子を伝えるようにして 	<ul style="list-style-type: none"> 学級通信はわかりやすい内容になるよう意識して書く。 保護者が知りたいクラスの様子や成長の姿を伝えること 	<ul style="list-style-type: none"> 手書きの通信、個人のおたより帳から子どもの姿が良く分かる。同時に先生が一人ひとりをよく見ていてくれることを感じる。 	A

	聞き入れ的確な対応をする。	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な相談について解決するまで、解決に向かうように努力する。 カウンセリングやペアレント・プログラム講習を実施し、保護者支援の機会を広げる。 	<p>ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の不安や悩みを把握し、より適切な助言ができるようにする。 保護者の意見や要望に耳を傾け、子どもにとってどうか？を第一に考え、対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園の活動の内容や意義を、小学校やその後の成長に関連付けて保護者に発信、啓蒙できると良い。 保護者からの意見については全て取り入れるのではなく、園の教育方針に合わせ、取り入れるものを見極めていることが良い。 父母の会活動が楽しく活発に行われている。 	
B	<p>地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人々と挨拶や会話を交わす。 地域の自然や施設、人を必要に応じて利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎ボランティアの方々と園行事に招待し、園の活動を知ってもらったり交流を図ったりした。 地域の自然について、園児と一緒に触れるようにしている。(田植え、稲刈り、園外散歩等) 	<ul style="list-style-type: none"> 登降園の際や園外に出かける時は、公共のマナーやルールを守る意識を持たせ、地域の人々と気持ちのよいかかわりを持てるようにする。 自然や地域は日々移り変わりががあるので、常に新しい情報を得るようにする。 徒歩通園、バス通園ルートの問題については迅速に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 登降園時、教員がすれ違う地域の方々と挨拶を交わす姿を見て、園児も良い影響を受けていると感じる。 地域の発達支援センターと連携して園児に合わせた適切な支援をしていって欲しい。 在園中に様々な地域の特徴を知る機会を作り、成長の過程で地域に興味を持つことにつながると良い。 地域自治会文化展の絵画展示を通して地域住民も子どもの成長を感じることができる。今後も続けて出品して欲しい。 	B
B	<p>研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会では自己課題を明確にして積極的な参加をして 	<ul style="list-style-type: none"> 各教員の力に合わせて必要な研修を選択し参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加した外部研修について、教員間で内容や知識を共有、 	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士による研修は、実際の子どもへの援助につながることなの 	A

	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修は、各自が意見を述べるができる場にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、要支援児について、事例検討会を定期的に行い、関係する職員が参加し意見交換を行った。 ・臨床心理士を講師に招き、ロールプレイ研修を行った。 	<p>保育で実践できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修では事前に内容を把握し意見をまとめておき、参加者全員が発言できるようにする。 	<p>で、有効である。今後も、連携を取って要支援園児の援助を深めていって欲しい。</p>	
B	<p>外部アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に行くことを楽しみにしている。 ・人とかかわる力が育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちを一人ひとり温かく受け止め、楽しく安心した生活を作る。 ・教師や友達との楽しい心の交流を様々な場面で体験させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・項目別選択の「あまりあてはまらない」「いいえ」の少数回答に潜在する気持ちがあることを自覚する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート記述から、保護者に対しての丁寧な取り組みが伝わっていることが分かる。 ・引き続き、保護者から信頼を得られるよう努力して欲しい。 	A

アンケート総合結果 回収率91%

■ はい ■ 大体あてはまる ■ あまりあてはまらない ■ いいえ

